彩の国 埼玉県
Saitama Cancer Center News

がんセンターだより

第 37 号
平成25年９月10日 発行
発 行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病 院 長
田 中 洋 一

基本理念 “唯惜命”

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、十分な医療情報提供と患者さんの自己決定権を尊重し博愛と奉仕の精神で医療を行います。

目次

- 埼玉県立がんセンター泌尿器科と地域医療機関との連携……1
- 新副病院長のご挨拶／大腸がんの予防・治療を目指したＡｈＲ活性化物質の探索……2
- 地域連携・相談支援センター……3
- がんセンター新病院のご紹介……4

埼玉県のマスコット コバトン

埼玉県立がんセンター泌尿器科と地域医療機関との連携

泌尿器科 科長兼部長
影山　幸雄

1 前立腺がん組織検査（生検）後の経過観察

前立腺がんを早期発見するためには前立腺特異抗原（ＰＳＡ）という血液検査が大変役にたちます。埼玉県でも健康診断の中に取り入れられており成果を上げています。通常ＰＳＡが４以上の場合にがんの心配がないかどうか前立腺の一部を細い針で採取して調べる前立腺生検が行われます。前立腺がんの診断の上で欠かすことのできない大事な検査ですが、前立腺のごく一部だけをみて判断するため診断能力に限界があります。そのため、たとえがんがみつからなくともしばらくＰＳＡの数字が高くならないかどうか様子をみるのが賢明です。埼玉がんセンター泌尿器科では経過観察のための手帳を作成し、周辺の医療機関でもＰＳＡ検査を受けられるように体制を整えています。前立腺生検後年に２～３回ＰＳＡを測定して、２年間経過をみるようになっています。

2 前立腺がん放射線治療後の大腸内視鏡検査

放射線治療は早期前立腺がんの根治療法のひとつです。当センターでもたくさんの方が治療を受けられています。負担の少ない治療ですが、放射線の影響により直腸から出血することがあります。また長期間経過すると一般の方よりも大腸がんにかかる危険がわずかに高くなると言われています。また前立腺がん患者さんは高齢の方が多く、前立腺がんとは別に大腸ポリープや大腸がんが見つかる場合も少なくありません。このような背景から放射線治療後は時々大腸内視鏡検査を受けておくのが安心です。しかしながら患者さんの数が多いため、がんセンターだけで対応するのは困難です。そこで連携手帳を作成し、周辺の医療機関の先生方に定期的な大腸内視鏡検査をお願いすることになりました。既に何人かの方が検査を受けられ、中には早期大腸がんが見つかった方もいらっしゃいます。

3 早期腎がん・早期膀胱がん手術後の経過観察

腎がんも膀胱がんも早期の段階で適切に治療すれば、多くの方が根治に近い状況となります。しかしながら手術後しばらくは再発していないかどうか定期的に検査を受ける必要があります。これについても連携手帳を作成、周辺医療機関に協力にお願いして、経過観察のための検査の一部をがんセンターに代わって行っていただくようにしています。がんセンターにはおおよそ１年ごとに来院していただき、それ以外は周辺の医療機関で診察、検査を受けていただきます。これにより通院時間や診療待ち時間が短縮され、スムーズな診療が可能となります。

新副病院長兼看護部長のご挨拶

副病院長兼看護部長
柏浦　恵子

本年４月より副病院長兼看護部長に就任致しました。新病院への移転・幕開けを控え、光栄であるとともに重責を感じております。

新病院が目指す『高度先進がん医療の実践』と『患者と家族にやさしい病院』その実現のためにはチーム医療の一層の推進が必要となります。とりわけ、患者さん、ご家族の最も身近な存在であり、院内外のあらゆる職種の方々との連携・調整・協働を必要とする看護職は、多職種の皆さんと良い関係のなかで看護の力を最大限に発揮しその役割と責任を担っていくことが重要と考えます。

看護部では、県内の病院施設と訪問看護ステーションの看護職の方々を対象に『がん看護公開講座』を毎年開催しています。専門・認定看護師らによる講義を中心とし、毎回多くの方にご参加いただいておりますが、在宅療養支援を含め、地域連携を推進するうえでも貴重な時間であり、場所となっています。今後もさまざまな場面を通じて連携を強め、相談支援業務の充実に繋げたいと思います。

看護師は、患者さんが安心して納得できる医療が受けられるよう、これまで同様患者さんやご家族の気持ちに寄り添った心のこもった看護の提供に努め、真のやさしさのある病院づくりへの一翼を担っていきたいと考えております。

大腸がんの予防･治療を目指した AhR活性化物質の探索

研究所　がん予防研究担当
椎崎　一宏

ゴミの焼却などによって生じるダイオキシンについて健康への影響が懸念され、排出に関する規制が設けられたのは記憶に新しいところです。ダイオキシンの毒性は、人体にある受け手（受容体：ＡｈＲ）が特定の遺伝子発現を変化させるためだと考えられています。

タバコの煙に含まれるベンゾピレンを酸化させて発がん物質に変える代謝酵素はＡｈＲによって誘導されるため、タバコによる発がんにもＡｈＲが深く関わっていることが分かります。では人体はなぜこのような厄介な受容体を持っているのでしょうか？最近になって、この「悪者」と思われていたＡｈＲを持たないマウス（ノックアウトマウス）では、逆に盲腸にがんができることが分かりました。このため、腸でのＡｈＲは何らかの方法で発がんを抑制していると推測できます。また、ＡｈＲが免疫機能を調節し、炎症を抑えていることも分かってきました。そこで、ダイオキシンやベンゾピレンではなく、安全な物質でＡｈＲを活性化すれば、腸での発がんを抑制できる可能性があります。実際に食用植物や薬用植物にもＡｈＲ活性化物質が含まれています。例えばブロッコリーなどのアブラナ科植物に含まれるインドール化合物や、漢方薬である呉茱萸（ゴシュユ）に含まれるエボジアニン、茜（アカネ）に含まれるアリザリンなどもＡｈＲを活性化します。ＡｈＲの発がん抑制メカニズムの解析と共に、このような天然物によるＡｈＲ活性化によってがんを抑制する方法を目指し、研究を行っています。

＊地域連携・相談支援センター＊

平成２５年度がんセンター重点目標の一つに『連携の強化』が謳われているように、４月１日より相談支援センターから地域連携・相談支援センターへと名称変更を行い、看護相談・医療福祉相談・地域連携の３本柱での構成とし、それぞれの業務分担ならびに機能を明確にさせスムーズ且つ効率的な組織図構成を図りました。今回は地域連携担当の業務をご紹介いたします。

地域医療連携

医療機関からの相談窓口

地域医療機関からの患者紹介に伴う相談、問い合わせの窓口として機能します。

紹介医療機関との連携

地域医療機関との窓口。医療機関を訪問し、がんセンターのPR活動や医療連携のお願いをしております。

紹介患者にかかわる統計など

紹介患者・医療機関の全体的な状況把握や初診患者数一覧作成、紹介医へ報告書の提出確認やデータ処理などを行います。

医科歯科医療連携

がん治療（手術、化学療法、放射線治療）を行う患者さんの口腔ケア管理を推進するため、歯科連携機関との橋渡しを行います。

地域連携パスの推進

埼玉県医療連携手帳の運用を広め、患者さんを中心に当センターとのかかりつけ医の総合的な診療をバランスよく行うために連携を図ります。

＊地域連携パスとは…

地域の病院、クリニックと協力し同じ医療方針で医療を提供する目的で、治療計画書（パス）を用いて医療者が、検査結果や診療方針を知った上で協力体制を作ります。

当センターでは現在、胃がん・大腸がん・乳がん・肺がん・腎がん・膀胱がんのパスが運用されています。

連絡先
埼玉県立がんセンター
地域連携室・相談支援センター　地域連携担当
TEL：048-722-1111(代表)　FAX：048-723-6081(連携専用)

埼玉県立がんセンター新病院のご紹介

新たに導入する医療機器をご紹介します

８月に入り、新病院の整備は駐車場などの外構工事が順調に進んでいます。

今後は、１２月３０日の新病院オープンに向けて、移転準備や新規に整備する医療機器の導入などが本格化してきます。

前号のがんセンターだよりでは、高精度放射線治療装置についてご紹介しましたが、今回は新病院で整備される内視鏡手術支援ロボットと画像診断装置をご紹介します。

新病院整備工事の状況（平成25年７月現在）

手術治療では、内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の最新鋭機である「da Vinci Si サージカルシステム（デュアルコンソール型）」を新規導入します。

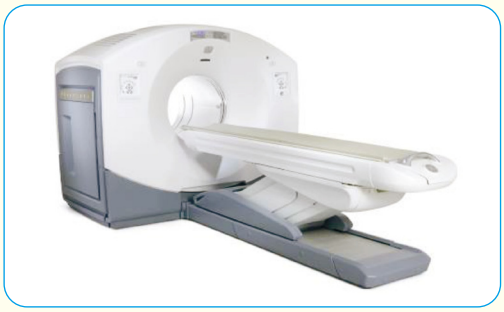
「ダ・ヴィンチ」は、高精度な３Ｄ画像とロボットアームを備え、遠隔操作により、人間の手以上に微細な内視鏡手術が可能です。開腹手術に比べ、患者さんへの身体的な負担が軽いため、術後の回復が早く、身体機能温存の可能性も広がります。

放射線による画像診断装置では、ＰＥＴ－ＣＴ装置を２台新規導入します。ＰＥＴ－ＣＴでは、特殊な放射性薬剤を使用して、一度で全身の検査を行い、小さな病変も見つけることができます。このため、がんの転移や治療後の再発などを調べるのに非常に有効です。

また、磁気による画像診断では、これまでの２倍の磁場強度となる最新のＭＲＩを導入します。これにより、高精細高画質な画像を従来よりも短時間で撮影することが可能となり、従来の機器では診断できなかった病変に対しても診断能力が大幅に向上します。

このほか、ＳＰＥＣＴ－ＣＴ、Ｘ線ＣＴ、血管造影装置も最新の機器に更新し、多様ながん診断に対応できる構成とすることで、患者さん一人一人に合った治療方針を決定することが可能となります。

▲内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」　インテュイティヴ・サージカル社　da Vinci Si Surgical System



◀ＰＥＴ－ＣＴ
ＧＥヘルスケアジャパン
Discovery PET/CT 710

ＭＲＩ（3.0 テスラ）▶
フィリップス
Ingenia3.0T